

## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																													
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工科技術専門課程	土木・造園科		平成25(2013)年度	-	平成26(2014)年度																													
<b>学科の目的</b> 専門的な知識と技術(専門力)を身につけるとともに、コミュニケーション能力や問題発見・解決能力等(人間力)を高めることを図り、暮らしをまもり、つくり、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。「土木」分野ではcivil engineering(市民の工学)という名の通り、自然と人間の調和を図りつつ、私たちの生活する社会の基盤を造り上げていく方法を学びます。「造園」分野では、自然と人工の調和共存を図りながら、生態系や場所性を考慮しつつ緑の効果を発揮させて、人間が求める機能と快適性を希求する技術と芸術を学びます。実技・実習を通して、最新技術についても触れる機会を設けて、実践的な教育を行います。																																			
<b>学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)</b> 二級土木施工管理技士、二級造園施工管理技士、3級造園技能士、2級造園技能士、高所作業車運転技能講習、小型移動式クレーン運転技能講習、測量士・測量士補、宅地建物取引主任者、車両系建設機械運転技能講習、玉掛け業務技能講習、小型車両系建設機械運転特別教育、高所作業車特別教育 中退率:2.6%																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,740 単位時間	795 単位時間	0 単位時間	1,650 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																										
				単位	単位	単位	単位	単位	単位																										
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																												
80人	83人		2人		2%		3%																												
<b>就職等の状況</b> ■卒業者数(C) : 33人 ■就職希望者数(D) : 33人 ■就職者数(E) : 33人 ■地元就職者数(F) : 19人 ■就職率(E/D) : 100% ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 58% ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 100% ■進学者数 : 0人 ■その他 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 日本道路、飛鳥建設、大成ロテック、大豊建設、西尾レントオール、東亜建設工業、大豊建設、徳倉建設、金杉建設、新日本工業、黒須建設、成友興業、巴山建設、東邦建設																																			
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門 学校等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL																																	
当該学科のホームページURL		<a href="https://www.neec.ac.jp/department/technology/landscape/">https://www.neec.ac.jp/department/technology/landscape/</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> (B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	120 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	60 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2人</td> </tr> </table> 上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 2人						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	2人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	2人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要な人材を育成するために、企業へのヒアリングを随時行い、土木・造園分野の実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスを基に科目担当教員と企業講師の間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。現在の建設業界で必要なスキルを身につけられるよう、常に授業内容や方法を検証することにより、実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 博之	明星大学理工学部 教授	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	②
友保 大地	住友林業緑化株式会社経営管理部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
巴山 一済	巴山建設株式会社代表取締役社長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
山田 俊之	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
小林 猛	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回

(開催日時(実績))

第1回 令和6年01月26日 16:00～18:00

第2回 令和6年03月26日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

基礎的な技術教育に加え、プロジェクトベースの学習を取り入れることで、実践的なスキルを学生に身につけさせることが重要。また、業界の最新動向を取り入れたカリキュラムの更新も必要である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 土木業界では、インフラ整備や災害復旧など、社会の基盤を支える重要な役割を担っている。技術の進歩に伴い、環境に配慮した持続可能な開発や、ICTを活用したスマートな施工方法が求められている。造園業界では、公共施設や住宅地の緑化計画から、歴史的な庭園の保全まで幅広い知識が要求される。特に、都市部における緑の空間の創出や保全は、住民のQOL向上に貢献するため、重要視されている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
CAD-CIM1	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	図面を描くCADの操作について学びます。	株式会社アドデザイン
CAD-CIM2	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	CIM (Construction Information Modeling/Management) の基礎を学びます。	八千代エンジニアリング株式会社 有限会社 水都環境

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記  
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	大林組 次世代型研修施設 (日本初の高層純木造耐火建築物)	連携企業等:	株式会社大林組
期間:	2023年8月23日	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、 土木・造園科 教員
内容:	株式会社大林組(本社:東京都港区、社長:蓮輪賢治)は、自社の次世代型研修施設として、全ての地上構造部材(柱・梁・床・壁)を木材とした高層純木造耐火建築物「Port Plus」を建設しました。純木造耐火建築物としては、国内最高となる高さ44m(11階建て)です。木造建築の高層建築を見学し、SDGsや室内設備、環境配慮型の建築物を体験することで授業へのフィードバックを行う。		

研修名:	BIM技術(中級～上級)スキル講習	連携企業等:	Autodesk
期間:	2023年8月29日	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、 土木造園科 教員
内容:	令和5年度より国土交通省のBIM/CIM原則適用が始まり、施工段階でも今後3次元の設計成果物が増えてくることで、BIM/CIM原則適用への対応が迫られるようになります。特に施工段階に着目し、令和5年度のBIM/CIM原則適用の動向や内容について学習した上で、BIMの中級～上級のスキル向上を図る。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	哲学対話～課題発見・問題解決の方法～	連携企業等:	滴塾 第二学舎
期間:	2023年9月17日	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、 土木・造園科 教員
内容:	哲学対話とは対話の参加者が輪になって問いを出し合い、一緒に考えを深めていくという対話のあり方のことです。近年においては、日本でも哲学対話の実践が普及するようになりました。日本における実践は、アメリカで始まった「子どものための哲学」やフランス発の「哲学カフェ」などが原点とされています。学生の専門分野のスキル向上だけでなく、人間力やコミュニケーション力といった部分の強化、また自らで考え抜く力が重要となるため教員がファシリテーションを学ぶ研修を行う。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本建築学会 BIM情報教育手法・技術WG_2024大会研究懇談会	連携企業等:	日本建築学会
期間:	2024年8月27日 10:00～12:00	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、土木・造園科 教員
内容:	大学等教育機関、企業等組織、そして地域社会のステークホルダーをも包含する建築教育をテーマとし、新たな技術の進展、地域創生につながる建築教育の役割について議論する。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「感性を磨く探究カリキュラムの作り方」追手門学院中高「探究科」始動から4年間の軌跡	連携企業等:	株式会社ARROWS
期間:	2024年7月26日 20:00～21:00	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、土木・造園科 教員
内容:	2020年に追手門学院中・高等学校は、教科として「探究科」を発足。「自分の道を踏み続ける感性をOriginalityとCreativityで磨き続ける探究活動」をコンセプトに探究学習をゼロから設計。探究科に特化した学校専用メディア「O-DRIVE」も運営するなど、様々なユニークな取り組みで日本の探究学習を牽引しています。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。  
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について  
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
- ・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してはどうでしょうか。
- ・報告内容にeラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験動員を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
- ・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
- ・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感激しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
- ・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となつてきていた時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思えます。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思えます。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
- ・コロナ禍がスッキリ明けたとさえ言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思えます。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
- ・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらゐの実績が書かれていれば良いかと思えます。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思えます。
- ・教職員研修は、実施されると思いますがこれからもどうか業務として認めていただけることも合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形で済ませないようお願いいたします。
- ・保護者会は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
- ・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学が側に取ってとて有難いことかと思われまふ。また会議の折にもお話いただきましたが対面授業とオンライン授業のハイブリットにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎということは無いかと思えますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨今、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところだす。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

### (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生/企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他( )

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和6年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 土木・造園科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル	社会人に必要な一般常識やマナーを学びます。また、ビジネス能力検定の対策も行います。	1・前	30	2	○			○				
2	○			キャリアデザイン1	就職するための心構え、自分にあった就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学びます。	1・後	30	2	○			○				
3	○			土木概論	土木とは何か、土木の歴史、国土利用計画・治水・都市計画をはじめとする土木計画について学びます。	1・前	30	2	○			○				○
4	○			構造力学1	土木で使用する数学の基礎と、構造物の基本要素であるはりの力学について学びます。	1・前	30	2	○			○				○
5	○			土木材料	土木工事で使用する材料として、コンクリート、骨材、鋼材、歴青材料等の特性について学びます。	1・前	30	2	○			○				○
6	○			造園概論	造園とは何か、造園の歴史、造園にかかわる基礎知識を学びます。	1・前	30	2	○			○				
7	○			植物園芸学	植物の生態、植生分布、園芸の歴史や技術、緑地管理の基礎について学びます。	1・前	30	2	○			○				
8	○			造園材料	造園で使用する材料として、石材、木材、繊維材料、植物の種類と特性について学びます。	1・後	30	2	○			○				
9	○			施工管理計画1	安全管理、工程管理、品質管理について学びます。	1・後	30	2	○			○				○
10	○			施工管理技士資格対策1	土木および造園の2級施工管理技術検定学科試験の対策を行ないます。	1・後	30	2	○			○				○
11	○			製図基礎	土木・造園図面の写図等を通して、その読み方や機能を学び、製図の基礎を身につけます。	1・前	60	2			○	○				
12	○			測量実習	測量の考え方、各種測量器具の基本操作などについて、実習と座学を通じて学びます。	1・前	60	2			○	○				
13	○			土木実習	土木工事に必要な技術について、実習や現場見学等を通じて学びます。	1・前	60	2			○	○				
14	○			造園実習	土壌改良、植物の取扱い、芝生の造成等について、実習を通じて学びます。	1・前	60	2			○	○				
15	○			基礎デザイン	土木や造園の模型制作の基礎を、実習を通じて学びます。	1・後	60	2			○	○				
16	○			CAD-CIM1	図面を描くCADの操作について学びます。	1・前	60	2			○	○				○
17	○			施工実習	測量実習・土木実習・造園実習で学んだ技術をもとに、より高度な内容の実習を行ないます。	1・後	60	2			○	○				

(工科技術専門課程 土木・造園科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
18	○			パソコン実習1	文書作成ソフト、表計算ソフトなどの基本操作を学びます。	1・後	30	1			○	○			○	
19			○	構造力学2	構造計算に必要な断面の諸係数、応力度と安全の検討や、トラスの力学について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
20			○	造園技術1	国内外の造園様式や技法、植栽管理等について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
21			○	土質工学	土の物理的性質、圧密、地盤の調査について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
22			○	造園計画	庭園・エクステリアのデザイン手法、造園の施工計画などについて学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
23			○	CAD-CIM2	CIM(Construction Information Modeling/Management)の基礎を学びます。	1・後	60	2			○	○			○	○
24			○	造園設計1	造園設計の基本的な考え方を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
25			○	土木材料実験	コンクリート、鋼材、土質などの実験を通して、土木材料のそれぞれの性質を学びます。	1・前	60	2			○	○		○		
26			○	3級造園技能士資格対策	3級造園技能士合格のための対策を行います。	1・前	60	2			○	○			○	
27			○	インターンシップ1	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・前	30	1			○		○		○	
28			○	インターンシップ2	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・後	30	1			○		○		○	
29			○	測量士補資格対策1	測量士補合格のための対策を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
30			○	技術系公務員対策1	公務員試験に向けて、教養試験および専門試験の対策を行ないます。	1・後	30	2	○			○			○	
31			○	建設機械1	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施します。	1・前	30	1			○		○		○	
32			○	建設機械2	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施します。	1・後	30	1			○		○		○	
33			○	校外研修1	国内外の研修を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・後	30	1			○		○	○		
34	○			キャリアデザイン2	就職するための心構え、自分にあった就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
35	○			施工管理計画2	安全管理、工程管理、品質管理、積算、法規等について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		



(工科技術専門課程 土木・造園科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
36	○		ランドスケープ概論	ランドスケープデザインの歴史を学び、造園・土木・建築等が交差する領域について理解を深めます。	2・前	30	2	○			○		○		
37	○		施工管理技士資格対策2	土木および造園の2級施工管理技術検定学科試験の対策を行ないます。	2・前	60	4	○			○		○		
38	○		都市防災学	我が国で頻発する自然災害(地震・津波・大雨・土砂災害等)を知り、防災について学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
39	○		環境学	生態系や環境問題について理解を深め、環境管理・環境アセスメントについて学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
40	○		土木・造園演習1	土木・造園の現場作業を実習を通じて体験し、将来の施工管理に役立てます。	2・前	120	4			○	○			○	
41	○		土木・造園演習2	土木・造園の現場作業を実習を通じて体験し、将来の施工管理に役立てます。	2・後	120	4			○	○			○	
42	○		パソコン実習2	文書作成ソフト、表計算ソフトなどの基本操作を学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
43	○		卒業制作	2年間の集大成として構造物や庭園などの計画・設計～模型制作・施工などに取り組み、成果をまとめます。	2・後	240	8			○	○			○	
44		○	水理学	水の性質、静水圧、水の運動、管水路について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
45		○	造園技術2	造園の施工管理、施工方法、関連法規等について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
46		○	CAD-CIM3	CIM(Construction Information Modeling/Management)の活用を学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
47		○	造園設計2	実際の庭園設計実習を通じて、設計の実務について学びます。	2・前	60	2			○	○			○	
48		○	インターンシップ3	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	2・前	30	1			○		○		○	
49		○	インターンシップ4	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	2・後	30	1			○		○		○	
50		○	測量士補資格対策2	測量士補合格のための対策を行います。	2・前	15	1	○			○			○	
51		○	技術系公務員対策2	公務員試験に向けて、教養試験および専門試験の対策を行ないます。	2・前	30	2	○			○			○	
52		○	2級造園技能士資格対策	2級造園技能士合格のための対策を行います。	2・前	90	3			○	○			○	
53		○	校外研修2	国内外の研修を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	2・後	30	1			○		○	○		

(工科技術専門課程 土木・造園科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
合計					53	科目		2445時間 108単位	単位(単位時間)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 卒業時に必修科目1470時間(66単位)および選択科目270時間(12単位)以上取得し、合計1740時間(78単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方法: 1年次は必修750時間、選択科目180時間以上履修すること 2年次は必修720時間、選択科目90時間以上履修すること	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。